

## 山梨県工事技術的難易度評価実施要領 改定理由

山梨県工事技術的難易度評価実施要領は、県が所管する請負工事の適正かつ効率的な施工を確保し工事に関する技術水準の向上に資するとともに、受注業者の適正な選定及び指導育成を図ることを目的としている。

令和6年度から建設業の時間外労働上限規制の適用が開始されることから、業界における働き方改革のさらなる促進のため、見直しを行った。

事業分類の農業農村整備のうち、ほ場整備・ため池に関しては、工事難易度について農林水産省を参考にしつつ、ほ場整備の区画整理とため池の堤体について、農水省と比べ工事区分を県独自で高く設定していた。受注者の技術力も向上していることから、工事難易度の改定を行った。

具体的に、ほ場整備については、農林水産省の区分では「ほ場整備(区画整理、暗渠排水、客土)」の1区分であるが、山梨県では「ほ場整備(暗渠工)」と「ほ場整備(区画整理工)」に分けて評価を行っていた。今回、工事難易度を農林水産省と合わせ改定するとともに、本県では暗渠排水、客土については、区画整理の1工種として実施しているため工事区分の表記も現在の「ほ場整備(暗渠)」から「ほ場整備(区画整理)」とし、現在の工事発注にあった用語に変更した。

また、ため池については、農林水産省の区分では「ため池(皿池、盛立(築堤)、取水施設、洪水吐、底泥浚渫)」と「ため池(山池、麓池)」に区分されているが、山梨県では工事の内容に合わせて「ため池(維持管理)」と「ため池(堤体)」として評価を行っていた。今回、工事難易度を農林水産省と合わせ改定するとともに、表記についても現在の工事発注にあった用語に改定し、「ため池(維持管理)」については『盛立(築堤)、取水施設、洪水吐、付帯工』、「ため池(堤体)」については「ため池(新設)」とした。

## 工事区分別工事難易度対応表

手順 4 の「易、やや難、難」判定結果から、工事区分に応じ、以下の工事難易度 I ～ VI として評価する。なお、特に難易度を高める要因がある場合、難易度を高める要因が多岐にわたる場合等には、各工事区分の「難」より上位のランクに評価する。

工事分類	構造物分類・構造型式・工法分類	I	II	III	IV	V	VI
1. ほ場整備	区画整理、暗渠排水、客土	易	やや難	難			
2. 農用地造成	改良山成、階段畑、土壌処理等	易	やや難	難			
3. 農道	切土工、盛土工、法面保護工、舗装、擁壁工 トンネル	易	やや難	難	やや難	難	
4. 橋梁	橋梁上部工、橋梁下部工		易	やや難	難		
5. 水路工	開水路、函渠工、管水路工、水路橋(小規模)、水管橋(小規模) サイホン、水路橋(大規模)、水管橋(大規模)	易	やや難	難	難		
6. 水路トンネル	水路トンネル(推進工法)		易	やや難	難		
7. 河川 及び排水路	水路トンネル(山岳トンネル工法、シールド工法、開削工法) 築堤工、護岸工、根固工、柵渠工、矢板工 揚排水機場、樋門・樋管 頭首工	易	やや難	難	やや難	難	
8. 畑かん施設	揚水機場(加圧)、末端パイプライン、散水施設、調整水槽(RCタンク) 調整水槽(PCタンク)	易	やや難	難	難		
9. 干拓	締切堤防(承水路堤)、潮廻水路、水切(排水路)、暗渠排水、土壌改良	易	やや難	難	難		
10. ダム	防潮水門、締切堤防(本堤)、排水機場 転流トンネル 堤体工		易	やや難	難	難	
11. ため池	皿池、盛立(築堤)、取水施設、洪水吐、底泥浚渫 山池、麓池	易	やや難	難	易	やや難	難
12. 地すべり	抑制工(承水路、排水路、水抜きボーリング、床止工)、抑止工(擁壁工) 抑制工(集水井、排水トンネル、堰堤)、抑止工(杭打工、アンカー工)	易	やや難	難	難		
13. 建築	木造、鉄骨 RC	易	やや難	難	難		
14. 施設機械	水路用ゲート、ゴム引布製起伏堰ゲート、除塵設備、ダム管理設備 ダム以外の受電設備、水管理設備 堰ゲート、ダム放流ゲート、ダム取水ゲート、ポンプ設備 ダム用受電設備、水力発電設備	易	やや難	難	難	難	難

※工事区分「その他」については、類似の工事区分との関係等から類推する。